

能の分類

能楽で演じられる物語(演目)は約2000番にものぼるといわれますが、現在演じられているのは約240番です。一日に五番(神・男・女・狂・鬼)の演目を上演する五番立を正式とし、各演目は次のように分類されています。

初番目物 (脇能)	よどみなくさわやかに (現行約40曲) 神霊の夢幻能(「高砂」「竹生島」など)
二番目物 (修羅物)	きびきびと勇壮に (現行約16曲) 武士の霊の夢幻能(勝修羅「田村」「八島」「箴」、公達「通盛」「清経」「敦盛」、老武者「実盛」「頼政」、女武者「巴」など)
三番目物 (鬘物)	優美にしっかりと (現行約40曲) 優美な女性の夢幻能(「井筒」「野宮」など)、植物の精の夢幻能(「杜若」「芭蕉」など)、天女(「羽衣」「吉野美人」)、老女の霊(「檜垣」「姥捨」など)、優美な女性の現在能(「熊野」「関寺小町」など)、優美な貴公子の夢幻能(「雲林院」など)
四番目物	変化を尽くしておもしろく (他に属さないすべての能、現行約90曲) 夢幻能(女物・・・「求塚」「三輪」、男物・・・「善知鳥」「恋重荷」など)、現在能(狂女物・・・「三井寺」「班女」など、直面物・・・「安宅」など、般若物・・・「葵上」「道成寺」、唐物・・・「邯鄲」など)
五番目物 (切能)	手強く足取り速く 貴公子物「融」、鬼畜物「野守」「殺生石」、鬼退治物「紅葉狩」「羅生門」、天狗物「鞍馬天狗」、祝言物「石橋」「猩々」など

『能・狂言辞典』(平凡社発行)より

能面名作選 期では、主に男性の面を展示しています。

戦いに明け暮れた武將たちや、天狗や鬼などの超人的な存在、また神々しい神の姿など、さまざまな表情が見どころです。

はくしきじょう

白式尉

作者不明 江戸時代

縦19.3cm 横16.1cm



こじょう
小尉



児玉近江満昌(～1704)
江戸時代(17C後半)
縦20.9cm 横15.5cm
面裏に焼印「天下一近江」

こじょう
小尉



大野出目洞水満矩(1664～1729)
江戸時代(17C末～18C初)
縦20.8cm 横15.4cm
朱漆銘「小尉」陰刻銘「出目満矩」
昭和16年中村直彦氏修理

あくじょう

悪尉

越前出目
満照
室町時代
(16C)
縦21.2cm
横15.4cm
陰刻銘
「歌舞」



ちゅうべしみ

中癡見

作者不明
江戸時代
縦18.8cm
横15.9cm



つりまなこ

釣眼

作者不明
江戸時代
縦20.9cm
横15.0cm
陰刻印
「側面符」



どうじ

童子

江戸時代
縦20.6cm
横13.5cm
補修跡あり



どうじ

童子

極・河内大
掾家重
(~1645)
江戸時代
(17C前半)
縦20.2cm
横13.5cm
金泥銘
「極河内作／直彦／(花押)」朱漆銘
「彩色之／(花押)」



ちゅうじょう

中将

作者不明
江戸時代
縦20.2cm
横13.8cm
「閑花」印
貼紙



かんたんおとこ

邯鄲男

作者不明
江戸時代
縦19.9cm
横14.3cm



へいた

平太

作者不明
江戸時代
縦20.1cm
横14.0cm



よりまさ

頼政

児玉近江
満昌
(~1704)
江戸時代
(17C末
~18C初)



かげきよ

景清

大野出目
洞水満矩
(1664 ~
1729)
江戸時代
(17C末
~18C初)
縦20.9cm
横16.6cm
陰刻印
「出目満矩」陰刻印「側面符」



よろぼし

弱法師

越前出目元休満光
(~1852)
江戸時代(19C前半)
縦20.2cm
横13.6cm
面裏に陰刻銘
「満光(花押)」



縦 21.3 cm 横 14.7 cm

陰刻印「天下一近江」
陰刻印「側面符」



やせおとこ

瘦男

大野出目洞水満矩
(1664~1729)
江戸時代(17C末~18C初)
縦 20.4cm 横 14.5 cm
面裏に金泥銘
「出目洞水打／庸久(花押)」
洞水は出目家五代、庸久は七代



ちぐさあやかし

千種怪士

大野出目洞水満矩
(1664~1729)
江戸時代(17C末~18C初)
縦 21.9 cm 横 14.4 cm
陰刻印「出目満矩」
陰刻印「側面符」